

最優秀賞

神奈川県共同募金会長賞

地域交流について思うこと

藤沢市立六会小学校

六年 萩原 凜

私の家の近所には、おじいさんやおばあさんが住んでいる家がたくさんあります。会うと必ずあいさつをします。

そんな私がとてもおどろいたのは、以前テレビでやっていた「あいさつをしないマンション」の話です。「知らない人が話しかけてきてもしゃべってはいけない」と教えられる子どもが増えている、マンション内の話し合いの結果、「あいさつはしない」と決めたそうです。

そんな中でも、地域の人たちが「お帰り」と言ってくれる商店街があります。この商店街では子どもたちを見守り、そして叱ってくれる大人たちがいます。この商店街の子どもたちは、社会のルールを叱られたりしながら、学ぶのです。

この他にも、地域の人たちと仲良くするメリットがあると思います。

例えば最近、子どものぎゃくたいが増えています。近所の人たちと親しければ、様子などに気付いてもらえるかもしれません。

他にも、一人暮らしのおじいさんやおばあさんに多いこ独死も、いつも毎日話しているおばあさんがいないことに子どもたちが気付けば、死んでしまう前に救急車を呼ぶことができます。

このように、地域の人たちとあいさつをすることは、とても重要なことだと思います。

私はこの前、お母さんと歩いていたとき、通りかかったおばあさんに、

『凛ちゃん、大きくなったねえ。』

と声をかけられました。私は、自分を小さいときから見ている、見守ってくれている人がいるんだなと思いました。とてもうれしかったです。

どんな人でも、自分を見守ってくれる人がいると、心の支えになると思います。

引きこもりになってしまった人も、心にきずを負った人でも、自分を気にかけてくれる人が一人でもいれば、立ち直るきっかけにもなると思います。

最近、老人ふくしや障害者ふくしが話題となっていますが、地域ふくしも大切だと思います。地域の人同士で助け合い、支え合うことが、平和の第一歩だと私は思います。